



せる程度となり、やがて涸れてしまう。所々にある灌木につかまりながら岩場の上を登るが、意外に足場はよく、水が涸れてから15分ほどで稜線に出る。天気が良く、見晴らしがきいて大満足である。代官袋沢が突き上げている東岐山の姿が特に印象深かった。(記・

[タイム] 橋(7:30)→清作沢出合(8:10)→最後の二俣(10:45)→稜線(10:55)

### 蒲生川支流無名沢 1996年7月28日

I

小白沢の遡行後稜線で十分に景色を堪能した後、バリカンで刈ったようにブッシュが一筋はぎ取られ、岩肌がむき出しになっている所を下降する。傾斜が急すぎてツルツルなので、靴のフリクションだけでは体を支えられず、脇のブッシュにつかまりながら下る。佐藤さんはワラジのフリクションがきくのか、下降がうまいのか、アツというまに下って行ってしまった。

20分くらいで170mほど下って、最初の小沢に出合う。ここからは傾斜も緩くなり、滝らしい滝も出てこないまま林道に出る。

林道を1時間ほど歩いた所で大西君の車にひろってもらい、キャンプ地に戻る。

(記・

[タイム] 稜線(11:05)→最初の沢(11:20)→林道(11:45)

### 蒲生川支流苧巻沢 1996年7月28日

I

昨年間違って入ることができなかった苧巻沢へ、今度は間違いなく入谷。林道より直接入ることになるが、出合はコンクリートの流路、周辺はヤブで、最初からアルバイトとなる。

ほどなく治山ダム。右岸を乗り越えて先に進むとまたしても治山ダム。今度